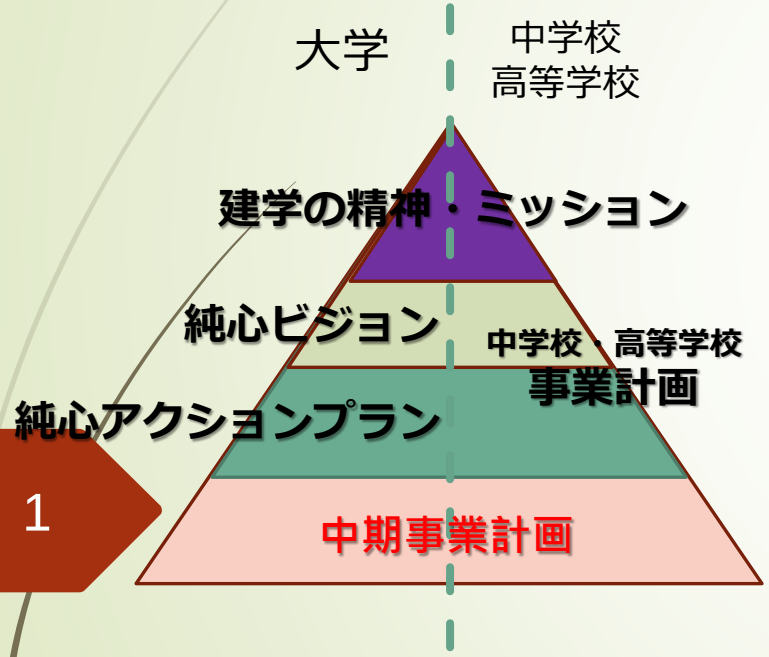
中期事業計画

＜ 2019年度～ 2023年度＞



1

この計画の位置づけ

この計画は2015年に策定した【純心ビジョン（みらい構想）】及び【純心アクションプラン（中長期の目標・行動計画）】、【東京純心女子中学校・高等学校事業計画（行動指針）】をベースとし、それらのうち経営改善に着目した実施計画（アクションプラン）として策定するものです。

計画の執行体制

この中期事業計画の実効性を担保するための体制として、大学においては学長が、中高においては校長が、また、法人においては、財務計画を含めて事務局長が、それぞれ進行管理を行うとともに、翌年度５月の評議員会において前年度事業の達成状況について説明し、意見を聞いたうえで理事会の承認を得るものとする。

Confidential

はじめに

- 東京オリンピックが開催される前年、昭和38年（1963年）に東京純心女子学園が設立され、以来、平成の時代を乗り切り、新たな令和の時代、そして再び、ここ東京でオリンピックを来年迎えようとしている中、当学園も新たな時代への対応が求められています。これまでの学園を取り巻く環境も刻々と変化し、この変化に合わせるように、学園としても社会のニーズを的確に捉えて、それに応えられるよう努力と試行錯誤を繰り返してまいりました。
- しかしながら、我が国における急速な少子高齢化の進展、国や自治体における中等教育、高等教育の見直しへの対応などに対して、当学園の取り組みは、結果として必ずしも、その時々の社会の変化や要請に沿った対応が出来ていたとは言いきれないことも事実です。
- このようなことから、ここ数年、学生生徒を確保することによる学納金、また、学生生徒数や学園における教育の質や取り組み状況によって助成される国や自治体の補助金等の十分な確保が厳しい状況が続いています。
- 平成の後半までは、過去における当学園の収支均衡を図ることを第一とした緊縮的な運営により、幾度かの危機を乗り越え、苦しいながらも比較的安定した状況が続いておりました。しかし、ここ数年の学園の教育活動に係る収支は毎年ほぼ３億の赤字が続いており、今後も抜本的な改善を図らない限り、この状況は悪化するばかりで、いずれそう遠くない将来に、手元資金がショートする恐れがあります。
- この状況は、準公的な教育機関として、ここ八王子に確固たる地位を築いてきた当学園としては、何としても避けなければならない事態であり、また、その一方で、一昨年に受審した日本高等教育評価機構における当大学の指摘事項にも、当法人の経営・管理と財務について、抜本的改善を求められている状況でもあります。
- このようなことから、当学園としては、経営改善を喫緊の課題として、今般、2019年度を初年度とし、５年間で教育活動収支の黒字化を図るため経営改善計画を策定することといたしました。全学一丸となって、この計画の着実な推進を図ってまいる所存ですので、教職員並びに関係者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

2019年５月　東京純心女子学園

経営改善計画最終年度における財務上の数値目標

東京純心大学

東京純心女子 中学校 高等学校
Tokyo Junshin Girls' Junior and Senior High Schools

2021年度に「教育活動による資金収支」を黒字化
（いわゆる営業キャッシュ・フローを黒字化）
2023年度に「教育活動収支差額」を黒字化
（いわゆる営業損益を黒字化）

建学の精神・ミッションを踏まえた学校法人の目指す将来像

【建学の精神】
カトリック修道会「宗教法人　純心聖母会」を設立母体とする学校法人東京純心女子学園は、「キリストの教えに基づいて真善美を探求するために、聖母マリアを理想とすること」を建学の精神とし、聖母マリアにならい、キリストにおいて示された神の愛によって、豊かな情操と高い知性を育み、責任ある奉仕の精神に富む人材を育成することを教育の目的としています。

【教育理念】愛に根ざした真の知恵 *“Sapientia in Caritate Fundata”*
東京純心大学は、カトリック的人類愛に根ざした教育理念に基づき、平和的国際社会と地域社会のよき担い手となる「愛に根ざした真の知恵」を身につけた人間の育成を教育の目的としています。そのために、“聖母マリアにならう人格形成”“普遍的心理の探究”国際社会にいきる教養の体得を柱とし、自己の可能性に挑戦し続けられる人材の育成によって、個性豊かな文化の創造と発展及び人類の福祉に貢献できる人間を社会に送り出すことを目指します。

東京純心大学

東京純心女子 中学校 高等学校
Tokyo Junshin Girls' Junior and Senior High Schools

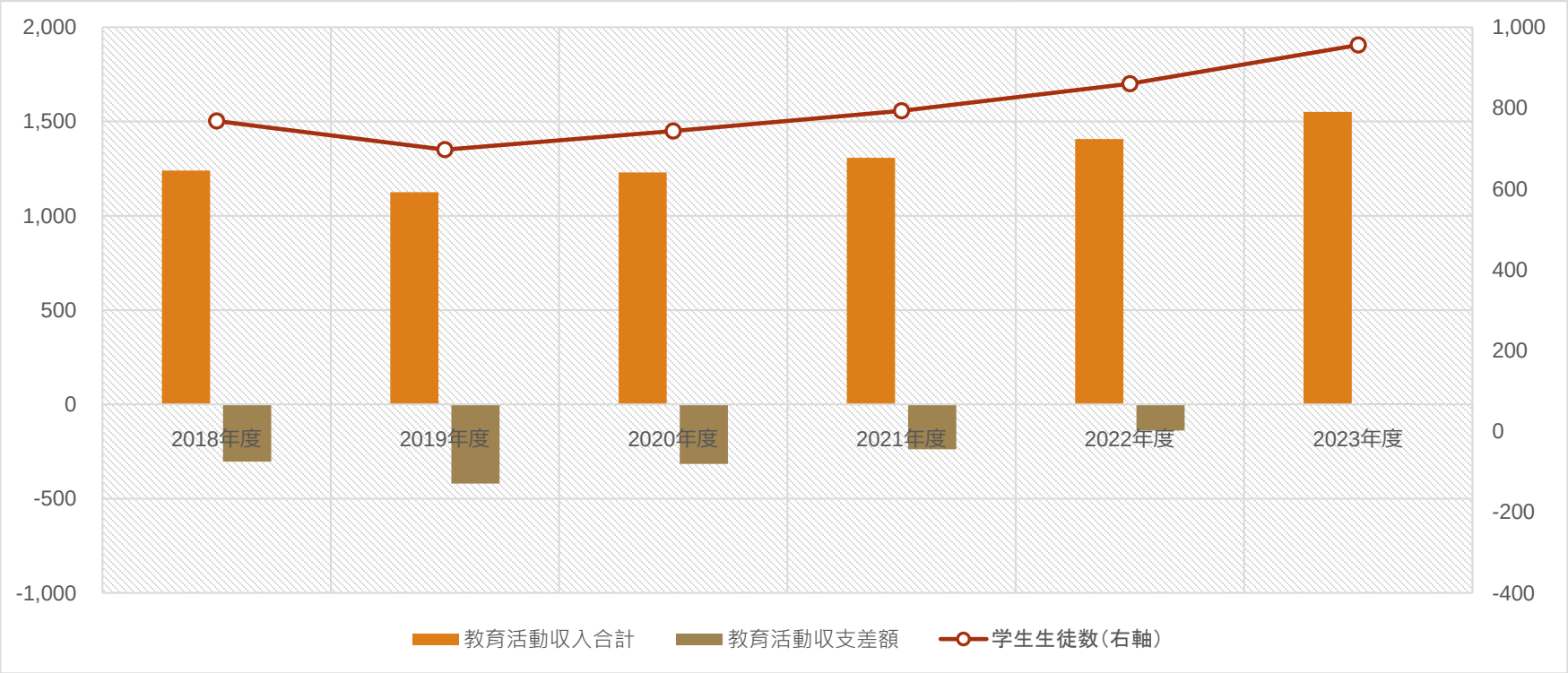
●聖母マリアにならう人格形成
　聖母マリアの生き方に、神への敬愛と信頼、自己の確立と犠牲、他者への思いやりと寛容など、人間としてならうべき姿を見ることができます。神の愛によって二つとない生命を受けた人間は、人格形成によって一層独創的な価値ある人間に生まれ変わるのです。この人格形成は人生観の礎であり、専門教育の土台となるものです。

●普遍的心理の探究
　カトリック精神に基づいた価値観、それは普遍的であることによって時代や国境を越えても変わらず世界に開かれています。情報の波が容赦なく押し寄せる現代社会にあって、普遍的真理を探究する姿勢を持ち続けることは、大切なことです。人間として「ぶれない芯」（真理）を大切にすることを純心教育は目指します。

●国際社会にいきる教養の体得
　現代社会が抱える平和、環境、人権などの問題は、身近で切実であると同時に、グローバルなものです。人と人とが支え合い与え合うことによって、相手に役立つ人間となるため、社会の中で自分の役割を切り開いてゆく教養を身につけます。国際社会は、幅広い視野で世界を捉え見渡し、文化の創造と発展、人類の福祉に貢献できる豊かな教養を身につけた人材を必要としています。

財務計画

東京純心大学
東京純心女子 中学校 高等学校
Tokyo Junshin Girls' Junior and Senior High Schools



財務計画の策定にあたって（前提）

・大学・中高の学納金等は2018年度の金額を５年間据え置き
・人件費・物件費に2019年度の金額を５年間据え置き

東京純心大学

受験者数の増

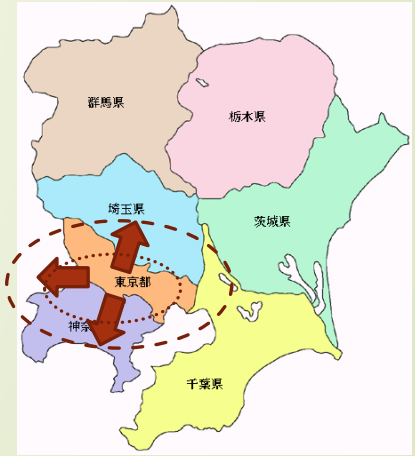
	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
現代文化学部	29	88	90	90	90
看 護 学 部	147	160	210	210	210

★目標達成のための取組

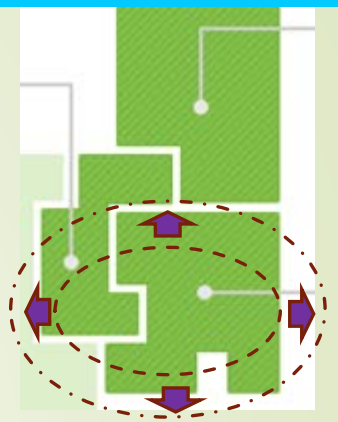
(1)知ってもらう（広報）

✓東京都・神奈川県・他県への広報拡充　✓広範囲での広報の開拓
✓学校訪問の重点化　✓ホームページの充実
✓コンソーシアム等を活用した出前授業の積極的展開

（東京都・神奈川県・他県への広報拡充）
　地元八王子及び近隣市町を中心としながらも東京全域、隣県（神奈川県、埼玉県、山梨県等）に設置されている高等学校への直接訪問・ＰＲの効果を検証しながら拡充・展開を図る。
＜2019年度～2023年度＞



東京純心大学



（広範囲での広報の開拓）

東京一極集中の懸念が叫ばれているものの、まだまだ若年層の東京指向は強いものがあり、近県のみならず東北・東海・北陸・近畿等に訪問して新たな受験者の掘り起こしを図る。

＜2019年度～2023年度＞

（学校訪問の重点化）

上記の高校訪問にあたっては、過去において本学受験者、入学者及びオープンキャンパス来訪者等のデータを再分析し、重点となる高等学校を再訪問し、進路担当者へのＰＲを通じて当大学への受験・進学の誘導を図る。

＜2019年度～2020年度＞

（ホームページ＜ＨＰ＞の充実）

業者と連携をとり、高等学校における進路担当者や高校生が観ることを今まで以上に意識してＨＰの再構築を図る。

＜2019年度～2023年度＞

（コンソーシアム等を活用した出前授業の積極的展開）

八王子市、神奈川県等とのコンソーシアムにおける連携事業を横断的に活用し、出張講座等を通じて当大学の存在の周知を図る。

＜2019年度～2023年度＞

東京純心大学

CHECK!

(2)見てもらう

✓**オープンキャンパスの充実**

（オープンキャンパスの充実）

高等学校訪問時には、積極的にオープンキャンパスを紹介しているが、当日来訪者は１～２名程度のこともある。当大学のオープンキャンパスに来てもらうため、様々な媒体を使ったＰＲとともに、教職員と大学生が一体となり、進学を希望する高校生にとって思い出深いオープンキャンパスの実施を企画する。

＜2019年度～2023年度＞

東京純心大学

CHECK!

(3)受けてもらう

✓試験内容の見直し
✓社会人・海外帰国生徒の確保
✓受験者ターゲットの絞りこみ
✓外国人受験者・入学者の受け入れ検討

（試験内容の見直し）

できるだけ多くの受験者を確保し、あわせて魅力あふれる学生を確保するために現行の試験制度（科目・時間・日時等）を検証し、必要な見直しを図っていく。

＜2019年度～2020年度＞

（受験者ターゲットの絞りこみ）

当大学は難易度としては合格しやすい位置にあり、また、看護師・幼稚園教諭・保育士は社会的ニーズはあるものの、当大学の受験者数は低迷している。この状況を改善するために、前述の（試験内容の見直し）とともに他大学の併願状況を把握し、併願校と同じ試験科目を課すことにより、受験者の受験科目における負担感を軽減し、より多くの受験生の確保を図っていく。

＜2019年度～2020年度＞

（社会人・海外帰国生徒の確保）

現代文化学部に加え、看護学部においても特別入学者選抜を実施し、多様な背景を持つ生徒の受験及び入学受け入れを積極的に進めていく。

＜2019年度～2023年度＞

（外国人受験者・入学者の受け入れ検討）

外国人の受験及び入学受け入れについて、検討・研究し、課題整理をしたうえで、導入可能なものから実施していく。

＜2019年度～2023年度＞

東京純心大学

(4)魅力アップに向けた取り組み

- ✓高大接続の展開
- ✓基礎学力支援センターの設置
- ✓大学院への進学に向けた取り組み
- ✓国内におけるグローバル化の進展に伴う多文化共生科目の導入
- ✓絵本の活用と絵本蔵書の充実

（高大接続の展開）

コンソーシアムを活用した出張講座の他に、高大連携をさらに一歩進め、高校と大学との単位付与を視野に入れた授業体験の可能性を探り、可能なものから導入を図り、当大学の魅力アップにつなげていく。

＜2019年度～2020年度＞

（基礎学力支援センターの設置）

大学進学に伴う学力面での不安や、入学後における学力不足を補い、充実した学生生活の支援を狙いとした基礎学力支援センターを来年度に設置するため、他大学の先行事例の研究、カリキュラム等について検討をスタートさせる。

＜2019年度＞

東京純心大学

（大学院への進学に向けた取り組み）

当大学を卒業し、さらにより高度な教育機会を目指す学生に対する取り組みとして、大学院を併設している他大学との連携に向けた研究・調整を行っていく。

＜2019年度～2023年度＞

（国内におけるグローバル化の進展に伴う多文化共生科目の導入）

現在、保育、幼稚園教育等の現場においては、外国籍の子供や外国にルーツを持つ子供たちが増加しており、保育面、教育面において多文化・国際化に対応できる保育者、教育者のニーズが増えている。

このような社会の要請に応えるため、令和元年度から、多文化における多様な価値観について、日本語と外国語の視点から、コミュニケーションを通じて異文化間の相互理解を深めるため、現代文化学部の必修科目として「こどもと多文化共生」を設置した。

＜2019年度～2023年度＞

（絵本の活用と絵本蔵書の充実）

当大学の特色の一つである、豊富な子供向け絵本蔵書について、学部教育との連携など、より一層の有効活用や当大学の新たなイメージの確立に向けた検討を進め、その実現を目指す。

具体の取り組み例として、国内外での著名な絵本作家や児童文学者を客員教授として招聘し、公開講座などを通して「感性教育、いのちと平和、絵本の純心」としてのイメージの創出と定着を図っていく。

＜2019年度～2023年度＞

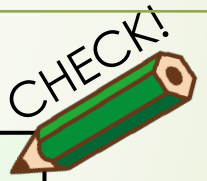
東京純心大学

入学者定員の見直し

New student	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
現代文化学部	20	35	50	50	50
看 護 学 部	62	74	80	80	80

Capacity	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
現代文化学部	60	60	50	50	50
看 護 学 部	60	60	70	70	70

★目標達成のための取組



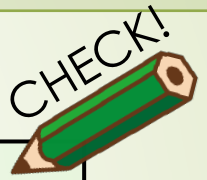
　時代の趨勢、社会のニーズを踏まえながら、必要に応じて、学部における入学者定員について、見直しを行っていく。
　定員見直しのタイミングについては、この中期事業計画を見直す２０２１年度に併せて、今後２年度のそれぞれの学部における、受験者、入学者の動向等を踏まえたうえで検討、調整、実施する（しない）を、大学として判断することとなる。

東京純心大学

補助金等の確保

単位：百万円

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
東京純心大学	77	90	97	104	114



★目標達成のための取組

✓経常費補助金については、「とりこぼし」がないように精査を図る。
✓特別補助金については、獲得可能性を図り、積極的に整備を図る。
✓日本学術振興会が助成する科学研究費補助金等について積極的に確保を図る。
✓補助金の増額に結び付く国等の新規取組みへの学内体制の整備

東京純心女子 中学校 高等学校
Tokyo Junshin Girls' Junior and Senior High Schools

受験者数の増

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
中　学　校	81	93	106	117	117
高 等 学 校	29	36	45	53	62

※中学校は実数、高等学校は外部受験生

入学者数の増

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
中　学　校	45	52	59	65	65
高 等 学 校	(27) 77	(33) 71	(41) 71	(49) 91	(57) 106

※高等学校の(　)は外部入学生

★目標達成のための取組

✓中学校訪問・塾訪問の強化　　**✓受験生向けイベントの拡充**

（中学校訪問・塾訪問の強化）

・募集要項の内容が固まり、志望校選定にむけた本格的な検討が始まる10月に、重点的に行なう。
・5～6月は、前年度に志願者のいた中学校へは必ず訪問し、他の学校へは学校案内やポスター、行事のチラシを送付。前期はその分、塾訪問に重点を置く。
・日能研、ena等の大手塾の他に、年々増えてきている個別指導塾にも対象を拡大。特に新設当初の塾には他校からの訪問も少ないため、積極的に情報収集と訪問も行なう。年に数回訪問し、教室長との関係を築く。
・５～６月には大部分の塾に訪問し、学校案内やイベント案内を配布するとともに、所属生徒の学年や、女子志願者の有無をリサーチする。
・９～10月には、受験生のいる塾を中心に訪問し、純心祭のご案内や、募集要項および入試のポイントを配布。
・２～３月には、出願者のいた塾に最新の入試問題を持参し、お礼を伝える。

＜2019年度～2023年度＞

（受験生向けイベントの拡充）

・例年、中高ともに、校内行事への参加者数累計の３割～４割が出願。
・学校に足を運ぶ割合が高い受験生ほど、出願に結びつく割合は高くなるので、学内イベントにいてホームページや塾訪問等で積極的にアピールし、参加者を増やしていきたい。
・同時に、小学生対象イベントには、数年にわたって参加する生徒が多いため、参加者が飽きないよう、イベント内容について改めて検討する。
・高校卒業後の進路を具体的に描けるよう、卒業生（大学生・社会人）によるお話なども、積極的に組み込んでいく。

＜目標値＞

①小学生対象イベント

・2021年度までに、校内イベントへの延参加者数を450名（2018年度の1.6倍）としたい。

②中学生対象イベント

・2022年度までに、校内イベントへの延参加者数を354名（2018年度の2.4倍）としたい。

＜2019年度～2022年度＞

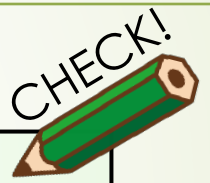
東京純心女子 中学校 高等学校
Tokyo Junshin Girls' Junior and Senior High Schools

補助金等の確保

単位：百万円

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
中　学　校	72	79	95	108	116
高 等 学 校	160	147	142	151	173

★目標達成のための取組



✓補助金の大部分は生徒数、標準教員数に比例
✓特別補助金の確保（国際化推進、生徒指導の充実、安全対策）